

## Ⅶ 保育の在り方、3歳未満児への対応

- 1
- ① 朝の登園時は家庭からの連絡をもとに視診・触診をして、乳幼児の健康状態を確かめている。
  - ② 体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温をするなど、適切な処置を行いすぐに家庭へ連絡している。
  - ③ 保護者から健康状態などの申し出を受けるなど、乳幼児の健康情報を共有し、アレルギー、熱性痙攣、脱臼癖などの既往症について把握している。
  - ④ 体重・身長などの測定を定期的に行い家庭に知らせるとともに、バランスの取れた発育が促されるように配慮している。
  - ⑤ 家庭と連携をとりながら一人ひとりに合わせて離乳食の移行を行い、様々な食品に慣れ、食への意欲を育てている。
  - ⑥ 睡眠が十分とれるような静かな環境を整え、午睡の状態(呼吸・顔色・嘔吐・汗)、およびSIDS(乳幼児突然死症候群)のチェックを記録している。
  - ⑦ 一人ひとりの排泄間隔を把握し、その子の排泄リズムに合わせて、オムツ交換えをしたり、トイレに促している。
- 2
- ① 乳幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察して受け止め、信頼関係を築いている。
  - ② 一人ひとりの乳幼児の発達課題について見通しをもって保育している。
- 3
- ① 落ち着いた雰囲気の中で抱いたり語りかけたりして、乳幼児が人との関わりの楽しさや心地よさを味わえるようにしている。
  - ② 泣いたりぐずったりのサインを見逃さず、要求に応じた適切な対応をしている。
- ① 乳幼児の心身の発達及び生活の連続性に配慮し、好奇心や発達を促す環境を整えて保育をしている。
  - ② 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみ取り、安心感と自己肯定感がもてるような言葉かけをしている。
  - ③ 禁止語を不必要に用いないようにしている。
- ① 乳幼児期は身体的条件や生育環境などの違いにより、一人ひとり心身の発達に個人差が大きいことを理解し関わっている。
- 4
- ① 保育者全員が情報を共有し、クラスに関係なく、その場にいる保育者が適切な言葉かけや対応をしている。
  - ② 指導上配慮を必要とする乳幼児については、園全体で話し合い共通理解をもって対応するようにしている。
  - ③ 他クラスや異年齢児との触れ合う機会がもてるようにさまざまな工夫、保育の形態に配慮している。

	1	2	3	4
1-①	77.3	22.7	0	0
1-②	86.4	13.6	0	0
1-③	68.2	22.7	9.1	0
1-④	54.5	36.4	9.1	0
1-⑤	55.0	40.0	0	5.0
1-⑥	68.2	27.3	0	4.5
1-⑦	47.4	42.1	10.5	0
2-①	47.6	52.4	0	0
2-②	23.8	66.7	9.5	0
3-①	52.4	47.6	0	0
3-②	42.9	57.1	0	0
①	23.8	61.9	14.3	0
②	52.4	47.6	0	0
③	38.1	52.4	9.5	0
①	68.4	31.6	0	0
4-①	38.1	47.6	14.3	0
4-②	38.1	52.4	9.5	0
4-③	33.3	57.2	9.5	0